

PTA だより

第80号

子ども達の心へ続く架け橋を
～ 家庭教育力の向上と学校、地域との更なる連携へ～

<市P連事務局>

〒923-0927 小松市西町25番地
小松市立芦城小学校内

TEL (0761) 23-2478

FAX (0761) 23-0902

E-MAIL pta@kec.hakusan.ed.jp

ホームページ www.hakusan.ed.jp/~kcpta/

平成25年10月1日発行
市P連広報委員会



小松市立学校PTA連合会
会長 齋藤 浩

PTA会員の皆様が、子ども達の幸せを願いながら日々活動を展開されていることに、まずは心から敬意を表したいと思えます。また、常日頃より小松市立学校PTA連合会に対する温かいご理解、ご支援を賜り、心から感謝を申し上げます。

未来を担う子ども達は、地域の宝物であります。小松市立学校PTA連合会は、家庭、学校、地域の架け橋としての役割を十分に認識しながら、各種団体との連携を強化し、「子ども達の未来」のために活発な活動を今年も展開して参ります。

小学校25校、中学校10校のそれぞれの単位PTAの存在と活動が、PTA活動の根幹を成すものだと思います。この基本的な考え方に立ち、教育環境の全体像を把握しつつ、時代の変化に対応できる組織のあり方を検討し、市内全校のPTAを応援して参りたいと思えます。

そこで、今年度の主題を「子ども達の心へ続く架け橋を」～家庭教育力の向上と学校、地域との更なる連携へ～と定め、各種の研修会、研究発表会を通して、会員の資質向上に努め、時代に対応した子育てをしていくために、会員同士が直接語り合い、絆を深めつつ、課題解決に繋がる学びを市内全体に発信し、家庭教育力の向上に努めます。今一度、家庭教育の役割を見直し、人と人との繋がりを大切に出来るPTAを目指したいと考えます。

「子ども達の未来」のためにという純粋な願いの実現に向けて、積極的な活動することは誇るべきことでもあります。子ども達にとって身近な大人が、先ずは夢を持ち、生き活きと楽しく、責任を持って活動に取り組む姿は、何よりも良いお手本になると確信致します。

本年度皆様と共に、「子ども達のため」「学校のため」「この地域の未来のために」を合言葉に、共に行動する更なるPTAを築きあげたいと思えますので、今後更なるご理解、ご協力を賜りますよう宜しくお願い致します。



顧問
西出 稔

● 一冊の本の出会い

もうずいぶん前になるが、PTA会長になった時に、蓮池薫さん翻訳の一冊の本を紹介されました。「人生でもっとも大切な二つの教え」それは「人の役に立つ人間になきなさい」、「徳は才より勝る」というものでした。この二つの言葉は、それ以降、私自身に大きく影響しました。常に感謝の心を持ち、人の役に立つ人になる。子ども達にとっては、自らが必要とされていると思うことで生きる力に繋がるということでしょう。では、「徳」って何でしょう。誰もが「人の役に立ちたい」と思う心、お釈迦様の「無言の説法」のような、この世に生あらんものは、どんな人も「人の役に立つことが出来る」ということではないでしょうか。人間として当たり前行動をし、直向きに、真面目に、素直に生きる。そして常に人として何が正しいかを考え行動するという事ではないのかと思えます。

最後に、2015年に東海北陸ブロックPTA研究大会をこの小松の地で開催することに決定したことを心よりお喜び申し上げます。この北陸の子ども達は体力・学力とも高い水準にあると聞きます。小松の生活、文化、歴史、教育、そして道徳感を自慢し、他地域に誇れる大会になることをお祈り申し上げます。



第56回 小松市PTA研究大会

日時◆平成25年8月4日(日) 場所◆こまつドーム



今年で第56回目となる小松市PTA研究大会が今年度も開催されました。和田市長をはじめ多くのご来賓の方々にもご来場いただき、それぞれの研究発表担当校の活動報告が発表されました。開会式におきましては、日頃よりPTA活動や子ども達の健全育成に努められた方々への表彰も行われました。研究発表では、矢田野小学校育誠会、国府小学校育友会、御幸中学校PTAの3校が学校と家庭教育そして地域との更なる連携をテーマとした活動や思いが発表されました。講演会では、芳珠記念病院 副院長 多賀千之氏をお招きし、「母親の役割・父親の役割」というテーマで、聴講者も参加しての大変楽しいお話をさせていただきました。そして大会は、多くの保護者と教育関係者の参加により盛況に開催されました。



講師：多賀 千之氏
(芳珠記念病院 副院長)



◆ 小松市教育委員会表彰状

鹿田 稔夫	嘉藤 志保
横山 康治	出倉 史惠
浅蔵 一華	



◆ 小松市立学校PTA連合会会長感謝状

鹿田 稔夫	千葉 繁
源 一男	
宮 宏・宮 美代子・宮 一則	

矢田野小学校

研究大会を振り返って

矢田野小学校育誠会 会長 内藤 浩司

8月4日(日)に小松ドームにて、矢田野小学校育誠会は『児童の自己有用感を育てる～役立つ自分～を目指す』をテーマに研究発表を行いました。

今回の研究大会での発表にあたり、昨年度より山本前会長のもと、前年度の役員ならびに各委員長・委員の方々には大変な思いをしながら、テーマの選定や各委員会の連携を図っていただきつつ、テーマに沿った活動、資料の収集作業を進めていただきました。苦労の甲斐もあり、研究発表を迎えるには資料の内容・量ともに十二分なものとなり、昨年度の活動を終えたのでした。

そして、今年度に入り研究大会に向けてのプレゼンの流れ・準備等について色々と考えてはみるものの、これといった案も浮かばず時間だけが過ぎていき焦る一方です。初心に帰って“自己有用感”について、インターネットで調べてみると、全国の学校・教育機関での取り組みが色々と閲覧することができて参考になると共に、今の教育現場や現代社会において大変重要な問題のひとつであることに改めて気付き、「気を引き締め直して取り組んでいかなければ。」と反省したのであります。

その後、結成された実行委員会のメンバーは優秀なばかりで、的確なアドバイスを頂きながら一切妥協せずに、研究大会の直前まで取り組むことが出来ました。大変でしたが満足のいく仕上がりになったと思います。

最後になりますが、今回の研究大会で発表の場を与えてくださった市P連、そして会場設営にご協力くださいました関係者の皆様に深く感謝申し上げます。「本当にありがとうございました。」



国府小学校

PTA研究発表を終えて

国府小学校育友会 会長 河端 哲也

「これで肩の荷が下りた」という感じでしたが、皆さんの前で言ったことを成果として残すためには頑張らなくてはいけないことに気が付き「これからだ」と思いました。もともと国府小学校は、保育園・保幼園から、小学校、中学校と持ち上がり同じ仲間と共に遊び学ぶという地区であり国府地区全体も教育に対する関心が非常に高いこともあり昨年と今年の役員の協力のおかげで見直し、発表の準備もスムーズに出来ました。現状の国府地区・国府小学校・育友会の活動を紹介しますと、まだまだいろいろな活動があります。しかし「国府っ子の夢・未来応援プロジェクト」の視点で見ると紹介させて頂いたことが、子ども達が夢を実現させるには一番大切なことだと思います。これまで育友会が取り組んできた事を自分なりに理解し、これまでの活動や運営の大変さ、多くの人の協力で成り立って居る事に気付かされました。特に学校、地域、家庭、育友会が一体となって同じ方向を向き、同じスピードで成長するには、それぞれの理解や協力なしでは出来ません。また子ども達が成長するうえで一番大切なのは、親が子どもと共に成長する事です。そのためには、学校での目標、テーマなどを親子で共有、理解して行くことで、家庭での会話を通じお互いを理解することができ、家庭での教育力が向上するのではないかと感じました。

今回の発表で他校のPTAでの取り組みを知り、いいところ、見習う所は、積極的に取り入れていきたいと思えます。今回このような貴重な発表の機会を頂きありがとうございました。



御幸中学校

発表を楽しんで

御幸中学校PTA 会長 大久保 雅春

発表に際して、こだわった事があります。一番こだわったことは？
スタッフに大きな負担やプレッシャーをかけない！大変な作業にしない！
そして・・・発表会を楽しむ！！でした。

御幸中学校PTAのありのままを見てもらおう！そのために特別な準備はしない！と心に決め周りが焦りだす5月末ようやく着手。(笑)

今年は御幸中にとって新校舎落成と研究発表というダブル・イベントの当たり年でもありました。PTAにとっては大変な年とも思われましたが、実はこの校舎の新築に伴い数年前から『新生みゆき』をテーマに様々な試みをしてきた中で特にここ数年の学校や生徒の状態が変化していったことや中規模校であることのメリットや地域色を生かした御幸中独自の活動があること、これらにスポットを当てて発表させていただこうと決めていたのです。

そしてこの数年間のPTA活動をありのままに伝えさせていただきました。特に『PTA憲章』の制定から『校則検討委員会』を立ち上げたことや、『新校則』施行までの道のりにあったことがいろいろ思い出され、その度ごとに学校と保護者のパイプ役として全力で改善に取り組んだ、そして現在も取り組んでいる新旧の役員の皆さんや先生方のこれまでの努力を再確認することができました。

私を含めその頃から継続で役員を経験している方が数名いたことも手伝って驚くほどスムーズでした。『高校視察』では映像で見せてしまうという手法をとり会場の方々に雰囲気共有していただきました。

結果、素晴らしいチームワークで全員目標通り楽しんで作業が出来、何より発表そのものを楽しむことが出来ました。御幸中PTAとしても成長できたのかなと思います。

研究発表という本当に良いチャレンジと機会をいただき、心から感謝しています。ありがとうございました。



第1回 母親委員会

日時◆平成25年5月23日(木) 午後7時より
場所◆ホテル サンルート小松



小松市立西尾小学校
校長 高 久美子

● 「おおきな木」でありたい

子どもの幼少時、元気に育ててほしいと、育児について悩み、相談し、一生懸命だった日々を親の誰しもが経験してきていると思います。少しずつ手が離れ、ひとり立ちしていく子どもの成長を喜び、自分の時間が持てるようになったころ、子育てはゴールなのでしょうか？

通勤中ラジオを聞きながら運転していると、「子どもが小さい時は悩みがあっても小さく、子どもが大きくなると悩みも大きくなる。」という話がありました。なるほどと思った次第です。

私ごとですが、二人の息子はすでに社会人、自立しています。子育ては家族に支えられてしてきましたが、小さい時の悩みは今に比べればたいしたことではなかったように思います。子どもが大きくなって、親の話をうるさがるようになり、はらはらしながら距離を置いて見守る中、一見何事もないような装いに安心していました。でも気づいてみると、どうしたものと困ったことが幾度かありました。

今にしてみれば、その度に、私自身が成長してきたように思います。

そろそろ世代交代の年齢を迎えます。子どもにしてやれることはだんだん少なくなりました。でも、親として、子どもに何があっても帰って来ることのできる「心のよりどころ」でありたいと思っています。

最後に、このような思いのときに出会った図書を紹介したいと思います。それは、シェル・シルヴァスタイン作の「おおきな木」という絵本です。本田錦一郎さんの訳と村上春樹さんの訳が出版されています。ぜひ読んでみてください。



読んで
みまっし!

『叱らないしつけ』

著 者：親野智可等
出版社：PHP研究所



母親委員会
広報担当

今年度は私たちが担当します。
よろしくお願ひします。

番田 由佳・下坂実菜代
吉田 桂子・浅木 栄子

第2回 母親委員会

日時◆平成25年6月6日(木) 午後7時より

場所◆第一地区コミュニティセンター



◇テーマ **今 子どもに求められる力**
～ そのために家庭では ～

◇講師 小松市教育長 **坂本 和哉氏**

坂本和哉氏 ●経歴等

昭和50年3月 京都教育大学教育学部卒業
昭和50年4月 小松市立養護学校にて教員として出発
平成10年4月 山中町立菅谷小学校教頭
平成16年4月 小松市立日末小学校校長
平成23年3月 小松市立板津中学校校長を最後に退職
平成23年4月 小松市教育委員会教育長就任～ 現在に至る

今時代は・・・

- 世界では、国際化・情報化が進み、それに伴い日本も諸外国の力を必要としている状態
- 日本では、少子化・高齢化が進み、いつまで先進国でいられるかわからない状態
- 産業構造の変化が激しく、現小学1年生の45%は、今存在しない仕事に就くとされている状態

求められる人間像

時代がどのように変わろうとも対応できる人間

必要な事を吸収して身につけられる能力を持った人間

世界の文化、価値観を受け入れられる柔軟性を持った人間

求められる人間に育てるために、家庭教育で取り組むこと

<親の取り組み>

- 失敗する前に手出しをし過ぎない
- 子どもにものを与え過ぎない
- 子どもの年齢に合わせた子育てをする

<子どもへの反映>

- 自分で解決できる能力をつける
- 我慢力が育ち、どうすれば手に入るかを考えることができる力をつける
- 親が自分の成長を認めてくれれば、自信がついて前進できる

子どもと共に、親も悩み、苦しみ、成長していく事が大事

講演を聞いた方の感想を一部掲載させていただきます

- 失敗する前に手を差し出したくなるのを我慢して見守れる親になれたら良いな～と思いました。
- 「子育て終わってからの人生を考える」というお言葉が身にしみました。
- 自分のことも大切にして、楽しみを見つけて、近い将来親子別々で豊かな人生になっているように子育て、自分磨きに励みたいです。
- 自分の人生もワクワク楽しみを取り入れた素敵な人生にしたいと思いました。その姿を見て子どもも楽しい人生を送る大人になってほしいです。



親子ふれあい体験バスツアー

「親子ふれあい体験バスツアーを終えて」

～ サンドブラスト体験とブルーベリー摘み取り ～

平成25年
8月18日
(日)

豊かな心を育む委員会 委員長 深田 博智



今年は、市内18の小学校から43組92名の参加を得て、滋賀県長浜の黒壁ガラス館でサンドブラスト。米原の吾一農園にてブルーベリー摘み取りを体験してきました。

親子で何か一つのことに取り組み、体験することで、親への尊敬であったり、子どもの成長というものを感じ取っていただきたいと思い、豊かな心を育む委員会で企画しました。

サンドブラスト体験は、透明なコップまたは小物入れに絵を描くものです。絵といひましても、描きたい絵をカッティングシールにデザインカットし、コップ（小物入れ）に貼り付けます。その後、砂を吹きつけると、透明なコップ（小物入れ）にシールの貼られていない箇所が白くなり、シールの貼られた箇所は透明な絵が浮かび上がるというものです。初めは、子ども達が楽しく絵を描き、貼り付ける姿を見ていたお父さん、お母さんでしたが、いつの間にか、親がペンを持ち、非常に細かい絵のカッティングに一生懸命になっていました。もちろん、私もその中の一人でした。

ブルーベリー摘み取り体験は、200g入るカップに摘み取る体験です。紫色になったブルーベリーが、大人の背丈ほどの樹にたくさん実っています。大人も子どもも、どれが大きいだろう、どれが美味しいだろうと、こっちの樹、あっちの樹を行き来し、カップに詰め込んでいました。この日は、35℃の猛暑日であったことから、ブルーベリーの摘み取りも程ほどに切り上げ、ブルーベリーのかき氷に行列でした。

例年、集合写真を後日、参加者に感謝の手紙を添えて郵送していますが、今回は、長浜、黒壁ガラス館で集合写真撮影後、データを写真屋さんまで送信し、小松市役所へ帰るころには写真が仕上がりに参加者に手渡すということを試みました。写真を手渡すと、何で着いたばかりなのに写真が出来ているの？と不思議な感覚でしたが、参加者の喜ぶ姿が見られ良かったです。

今回の企画を通じ、ご協力いただいた関係者の方々、市P連事務局および委員会メンバーの皆さんには本当に感謝しています。ありがとうございました。

保護者の感想

- 色々工夫されたツアーでとても楽しかったです。6年生の息子とゆっくり二人きりの時間で、充実した1日でした。バスの移動も長すぎず、話しもできて良かったです。次は二男と参加したいと思います。
- 暑い日でしたが、とても楽しかったです。子供達と物作りする事や体験する機会があまりないので楽しかったです。作品も仕上がりが楽しみです。なかなか子供と2人で旅行することもなく、今日の親子ふれあい体験バスツアーで久しぶりに2人で楽しみながら旅行ができたかったです。特にコップ作りは子供の意見を聞きながら2人で仕上げることができ思い出になりました。もう少しで夏休みも終わり、子供にとっても良い体験でした。

子どもの感想

- ブルーベリーを採っていて思ったことは大きくておいそうだと思いました。サンドブラストで切って貼る、その作業が楽しかった。楽な方をしたのでこんなことがまたあったら、今度は難しい方を作りたい。
- 今日はお母さんと一緒にバスツアーに参加して、楽しかったです。一番楽しかったのは、サンドブラスト教室です。どんな風になるか楽しみです。また参加したいです。
- コップに絵を描くことが楽しかったです。難しかったけど、上手にできて、嬉しかったです。ブルーベリー摘み取りでたくさん摘めることが楽しかったです。ブルーベリーかき氷がとっても美味しかったです。



『親子でアルミ缶回収』

蓮代寺小学校では、毎年各学年ごとでアルミ缶回収を行っております。

この活動は、地域の方やPTAの会員の方がアルミ缶を学校の回収ボックスに集めていただいたアルミ缶を2ヶ月に1度各学年ごとに親子で集まり、選別し袋にまとめて、業者さんの所まで運ぶ活動です。

この活動は、各学年の代表の親が中心となって、行っております
作業の時には同級生や世代の違う保護者も和気あいあいと作業しております。

集めたアルミ缶の代金で図書館の本を購入し、子どもたちに多くの本に触れ合っただけでなく、
これまでに多くの本を子どもたちに届けることができました。

この活動を通して、子どもたちだけでなく自分たち大人もリサイクルを含め物を大切に使い環境にやさしい生活をする一歩となれば良いと思います。

このアルミ缶回収という活動に賛同して協力していただいている業者の方や、地域や学校の職員さん保護者の方には感謝すると共に、地域のつながり、各学年でのつながりを感じております。

これからも活動を通し親子、地域、学校との連携を深めて、続けて行きたいと思っております。



単Pだより

蓮代寺小学校育友会

『子供達のふるさと』

日本人は大ていふるさとの山を持っている。山の大小遠近はあっても、ふるさとの守護神のような山を持っている。そしてその山を眺めながら育ち、成人してふるさとを離れても、その山の姿は心に残っている。どんなに世相が変わっても、その山だけは昔のまま、あたたかく帰郷の人を迎えてくれる。

私のふるさとの山は白山であった。

深田 久弥 「日本百名山 八七 白山」抜粋

私にとって、自分を育ててくれた松陽中学校を取巻くこの地域もそれに当たる。

卒業して三十数年、当然のようにその場所に在り続けている、これからは無くてはならない、昔と変わらない思い出詰まった校舎やグラウンド。多くの卒業生を輩出し現在に至っている。今年で開校64年になる。今日に至るまでには、保護者や地域の方々、先生方など多くの諸先輩方の力により脈々と受け継がれてきた思いや活動があったからこそ、この素晴らしい環境を維持できているのだと思う。感謝の賜物である。

現在の活動は『全ては子供のために』をスローガンに、特別新しい目立った活動でなく、毎年恒例となる活動ながらも地域と協力し継続して実施していくことを基本としています。

子供達の安心安全を守る活動（おはよう声掛け運動や危険個所の見回り活動）や学校への側面的な協力活動（奉仕作業）、保護者の教育への関心度を高める啓発活動（「松陽地区子供を育てる会」と共に大型講師を招聘した教養講座の開催）を地道に実施しています。

今年思いもしない2年間の育陽会会長を仰せ付かった。

卒業来、一度も学校に足を踏み入れた事がない、こんな者で務まるのだろうか。「任期中に何かしてやらねば」という気持ちは捨てよう。新しいことなんてまずできない。そう思うと気が楽だ。

継続は力である。毎年恒例と言われている行事も淡々と、驕らず、焦らず、無理せず、着実にやっていく。そして次の代に確実にバトンタッチしていく。これが一番大切なこと。

『早よ起きんと遅刻やよ』8月24日、まだ6時前である。

多分こんな会話となるはずである。今日は毎年恒例の奉仕作業の日。

『そんならちょっと行って汗かいてくるか』

この便りが配布される頃には、今年も綺麗になった校舎での子供達の生き生きとした笑顔が想像できる。

自分も含め、少しでも学校行事に足を運んでみようと思う人が増えれば大変嬉しいことだ。

常に変わらぬ姿を見せてくれている、この地域、中学校には、親である私達はもちろん、地域の宝物である子供達のふるさととして在り続けてもらいたい。

そんな一助になっている育陽会活動は、子供のためという気持ちがある限りこれからもずっと継続していくことだと思おう。

単Pだより

松陽中学校育陽会

単 P 広 報 誌 紹 介

◆◆◆ 広報紙コンクール受賞広報紙の紹介 ◆◆◆

中学校の部「最優秀賞」

板津中学校 P T A 『板津中 P T A だより』



「板津中 P T A だより」の特徴は、読み応えのある記事とその中に込められた温かいハート（心）でしょうか。先生や保護者、子供達や地域の方々・・・皆の温かい（熱い）思いを少ない紙面をフルに使ってお伝えしています。

小学校の部「優秀賞」

符津小学校 育友会 『ふつつ子』



符津小学校の「ふつつ子」は本年6月発行で144号になりました。年3回発行として48年以上の歴史があります。子ども達全員の顔が必ず紙面に掲載されるように配慮し、生き生きした姿や学校生活の様子が良く伝わる様に工夫しました。優秀賞に選ばれ育友会一同とても喜んでます。と同時に今後の励みにもなります。受賞ありがとうございます。

平成25年度 市P連組織

顧問 西出 稔 鹿田 稔夫 (御幸中)	会長 齋藤 浩 (向本折小)	監事 中田 浩大(稚松小) 林 健二(今江小)	会計 小島 美穂 (丸内中)	◎ 委員長 ○ 副委員長 ● 校長
副会長 滝口 尚之 (波佐谷小)	副会長 武部 哲也 (芦城小)	副会長 中家 睦己 (南部中)	副会長 大久保雅春 (御幸中)	副会長 東友起子(荒屋小) 中山恵美(第一小) 永田裕恵(松東中) 石川PTA連合会副委員長
副会長 道場 幹雄 (串小)	副会長 川腰米一(芦城中) 石川PTA連合会副会長	総務委員会 ◎東丸山 祐輔(荒屋小) ◎丸山 直輝(愛津小) ◎遠州 賢(金代小) ◎久保伸一郎(符津小) ◎西田 清明(中海小) ◎木下 靖彦(安宅小学校校長)	広報委員会 ◎紺谷 一康(那谷小) ◎徳本 憲志(白木小) ◎江指 憲(能美小) ◎河端 哲也(国府小) ◎内藤 浩司(安野小)	豊かぬ心を育む委員会 ◎深田 博智(西尾小) ◎松本 秀一(向本折小) ◎小島 賢一(第一小) ◎中村 大祐(金野小)
新世代委員会 ◎木田 勝彦(丸内中) ◎犬丸 幹夫(丸内中) ◎橋本 克巳(松東中) ◎出口 一弥(言城中) ◎藤井 公祥(松陽中)	母親委員会 ◎田中 堂子(言城中) ◎森田 寧子(丸内中) ◎竹島 清美(言城小) ◎橋本 美幸(南部中) ◎高久美子(南部中) ◎D橋本 隆(板津中) ◎C番田 由佳(月津小) ◎B油片 明子(蓮代小) ◎A大音 順子(波佐谷) ◎グリーフリーダー	特別委員会 ◎岡田 直樹(丸内中) ◎滝口 尚之(波佐谷小) ◎武部 哲也(言城中) ◎東友起子(荒屋小) ◎大久保雅春(御幸中)	東陸大会準備委員会 ◎北出 雅宏(中海中) ◎西出 稔夫(御幸中) ◎鹿田 尚之(波佐谷小) ◎武部 哲也(言城中) ◎中家 睦己(南部中)	
東陸大会準備委員会 ◎田中 堂子(言城中) ◎小島 美穂(丸内中) ◎永田 裕恵(松東中) ◎東友起子(荒屋小) ◎大久保雅春(御幸中)	東陸大会準備委員会 ◎田中 堂子(言城中) ◎小島 美穂(丸内中) ◎永田 裕恵(松東中) ◎東友起子(荒屋小) ◎大久保雅春(御幸中)	東陸大会準備委員会 ◎田中 堂子(言城中) ◎小島 美穂(丸内中) ◎永田 裕恵(松東中) ◎東友起子(荒屋小) ◎大久保雅春(御幸中)	東陸大会準備委員会 ◎田中 堂子(言城中) ◎小島 美穂(丸内中) ◎永田 裕恵(松東中) ◎東友起子(荒屋小) ◎大久保雅春(御幸中)	

編集後記

P T A 研究大会にて、『自己有用感』についての研究発表があり、改めて「ハッ」とさせられました。大人でも『自己有用感』の必要性を感じているのに、繊細な子ども達にはもっと必要なものであろうと痛感しました。子ども達が『自己有用感』を持てる接し方を心掛けたいものです。

